

## 令和7年度重点的に取り組む事業について

(令和7年5月1日現在の数値)

センター名	中津川市地域包括支援センター					
担当地域	中津川西・南・東 地区					
人口	25,613人					
高齢者数	65歳以上	7,869人	(内75歳以上)	4,757人		
高齢化率	65歳以上高齢者割合	30.7%	75歳以上高齢者割合	18.6%		
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	1,116人 (17人)	要支援1、要支援2	388人 (4人)		
	事業対象者数	12人				
介護認定率	19.0%					
現状	<p>H27年度より「元気アップ教室」(運動、栄養、口腔の内容を学ぶ介護予防教室)を実施してきたが、参加者の減少や、全地区送迎可としていたが、会場から遠い地区の方は参加が難しいという現状があったため、R5年度より「出張版！元気アップ教室」へ変更。</p> <p>我々が地域へ出向くことで、希望された地区の高齢者に対し、運動教室を通して介護予防の普及啓発を行うことができ、また地域の方が集まりやすい地域の集会所等で行うことにより、教室終了後においても、地域の通いの場等で運動が定着できるように行っている。</p> <p>R5年度2教室開催(神坂・蛭川) R6年度2教室開催(福岡・かおれ) 4か所中3か所自主サロン発足(1か所は教室開催前よりサロン化されている)</p>					
課題	現在事業の委託先が1か所であり、年間の教室開催可能数が少ないため、多くの地区へ対応することができていない。					
目標 (目指す姿)	高齢者の要介護状態への進行を予防するために、教室終了後においても個人や集団において運動が継続して行うことができるための介護予防の普及と、地域で介護予防ができる集いの場の発展。					
事業名	出張版！元気アップ教室					
取り組み内容	<p><b>【対象地区】</b> 苗木地区(本町)、西地区(大峠)、山口地区</p> <p><b>【内容・方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動、口腔講話(1回)、栄養講話(1～2回)のプログラム 運動指導士による体操や運動を毎回取り入れ、フレイル予防のための栄養講話や、口腔機能についても集団指導で実施</li> <li>○各地区の生活支援コーディネーターと連携し、自主化への支援を行う</li> </ul>					

※ 介護認定者数は、申請後審査が下りていない方がいるため暫定値

( )は認定者のうち介護保険第2号被保険者(40歳～64歳)の人数

センター名	中津川市瀬戸の里地域包括支援センター			
担当地域	苗木地区			
人口	5,820人			
高齢者数	65歳以上	1,864人	(内75歳以上)	1,093人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	32.0%	75歳以上高齢者割合	18.8%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5	291人 (2人)	要支援1、要支援2	61人 (2人)
	事業対象者数	6人		
介護認定率	19.0%			
現状	<p>苗木地区では、高齢化の進行に伴い、住民の皆さんの交流の機会が少しずつ減り、ひとり暮らしの方や介護をしているご家族が不安を感じる場面もみられるようになってきました。そうした中、地域の皆さんや関係機関の方々が協力し、地域包括ケアの考え方のもと、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを目指し、「健康福祉のつどい」を3年前から開催</p> <p>昨年度は、医師会の会長にご協力いただき、地域の現状を踏まえた大変わかりやすい講演を実施。参加された方々からも「とても勉強になった」とたくさんの好評の声があり、住民の健康への関心が高まる良い機会となりました。今年度も、引き続き地域の皆さんの関心に寄り添った内容を企画し、さらに交流と学びの場を広げていく重要性を感じている。</p>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士のつながりや交流の機会が以前より減少しており、気軽に集まれる場づくりの工夫が求められている。</li> <li>・関係機関や関係者同士のネットワークづくりも、さらに顔の見える関係を広げていくことが今後の課題となっている。</li> <li>・医療や介護に関する正しい情報を、わかりやすく住民の皆さんに届ける方法を工夫し、安心して暮らせる地域づくりを目指していきたい。</li> </ul>			
目標 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士や関係機関が顔の見える関係を築き、助け合い・支え合う地域づくりを進める。</li> <li>・高齢者や家族、支援者が気軽に参加し、交流し、楽しめる場を提供する。</li> <li>・医療・介護の知識を共有し、住民の安心と理解を深める。</li> </ul>			
事業名	地域のネットワーク(健康福祉のつどい)			
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康チェックや相談コーナー、や体験、参加型の企画内容</li> <li>・本人や家族、住民、支援者の交流の場となるネットワークづくりを促進</li> <li>・医療・介護に関する正しい情報を住民へ届け、健康への関心を高め、介護予防・重症化予防を進めるとともに、住民の安心感と支援者の学びの場とするため、医療や健康に関する講演会の開催</li> </ul>			
現状	苗木地区における認知症高齢者数は270人であり、そのうち見守りの必要な認知症高齢者も137人とされています。これは地区人口に対して7%の割合を占めており、今後も増加が予想される状況にあります。また、認知症の方の思いを聴く場や、地域住民の理解促進の機会が少ない現状が課題となっています。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方が地域で安心して暮らすための環境整備が不十分。</li> <li>・認知症の方ご本人の思いを直接聴く場が少ない。</li> <li>・見守り体制の構築と地域住民の理解促進が必要。</li> </ul>			
目標 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方の思いを聴き、地域の課題や支援方法を本人の声をもとに整理する。</li> <li>・地域住民への理解促進を図り、見守り体制の充実を目指す。</li> </ul>			
事業名	本人ミーティング			
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅のケアマネ、民生委員、生活支援コーディネーターと連携し、対象者の選定を行う</li> <li>・認知症のご本人を対象としたミーティングの開催(年2回)</li> <li>・本人ミーティングで出た声をまとめ、支援計画や地域の見守り体制づくりに反映</li> <li>・参加者の交流の場、認知症カフェなどの活用も検討</li> </ul>			

センター名	中津川市ひだまり苑地域包括支援センター			
担当地域	坂本地区			
人口	13,172人			
高齢者数	65歳以上	3,609人	(内75歳以上)	2,175人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	27.3%	75歳以上高齢者割合	16.4%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5 事業対象者数	474人 (9人) 9人	要支援1、要支援2	138人 (3人)
介護認定率	16.9%			
現状	地域包括ケアネットワーク会議において、認知症をテーマに昨年度は延べ3回の会議を行った。認知症への理解を広く周知するためのチラシづくりと、子どもやその親など認知症に関心が薄い世代への働きかけへの必要性について話し合われている。			
課題	介護保険の認定状況から見守りの必要な認知症の方が増加している。後期高齢者や独居及び高齢世帯の増加があるため地域で支えていく必要がある。地域包括ケアネットワーク会議を活かして、認知症についての理解と自分ごととして考える大切さを周知していく必要がある。			
目標 (目指す姿)	坂本地区高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくように継続的な支援体制を構築していく。			
事業名	坂本地区地域包括ネットワーク会議			
取り組み内容	①各団体の個々の取り組みの情報共有、意見交換を通じて、会全体で取り組むことができるような取り組みを検討し、実施するところまでつなげる。 ②各団体、地域住民に向けて、認知症当事者、その家族の理解が深まるような、啓発活動(認知症サポーター講座、出前講座等)を行っていく。 ③小学校に向けての認知症サポーター講座の開催を検討する。 ④年度内で取り組めた成果を市民に伝える場を検討する			
現状	認知症高齢者の方が増加しているが当事者の思いを聴く機会がなかった。			
課題	当事者の方の思いを聴き、地域での暮らしやすさに活かしていく必要がある。			
目標 (目指す姿)	認知症の人が暮らしやすいまちづくり、認知症の人も参加できる機会を設ける。			
事業名	本人ミーティング			
取り組み内容	・認知症ご本人同士が話をする機会を設ける。家族が居ない場での当事者同士の話からご本人の本音の引き出し、当事者から考える住みやすい町と一緒に考える。			

センター名	中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター		
担当地域	落合地区・神坂地区・瀬戸区(板橋を除く)		
人口	4,818人		
高齢者数	65歳以上	1,914 (内75歳以上)	1,113人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	39.7% 75歳以上高齢者割合	23.1%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5 事業対象者数	252人 (9人) 5人	要支援1、要支援2 73人 (2人)
介護認定率	16.7%		
現状	<p>・R6年12月に地域包括支援センター・在宅介護支援センターで中津川市版ACP「私のこころづもり」を広く地域住民へ啓発するためのツールとして作成した。今年度は、この作成したツールを知っていただくための活動が必要だと感じている。</p> <p>・自分の将来について考えたり家族等に自分の思いを伝えることが大切だと理解していくどのように伝えたらいいのかの手段を知らない。</p> <p>*「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」とは、将来のために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、繰り返し話し合い、共有するための取り組みです。</p>		
課題	<p>・ACPを知らない人が多い状況があるのではないか</p> <p>・中津川市版ACP「私のこころづもり」を作成したツールは市のホームページに掲載はあるが啓発として十分ではない。地域へ広く周知していく活動が必要と感じ、ACPの意識調査を含め、周知活動をしていく必要があるのではないか。</p>		
目標 (目指す姿)	中津川市版ACP[私のこころづもり]を通じて、ACPの取り組みについて知ってもらう機会を作る。将来について考えることで各々の目標ができ、介護予防等に取り組む姿勢につながる。		
事業名	「中津川市版ACP」の啓発及びACPの住民への意識調査		
取り組み内容	<p>・実態把握で訪問する独居、高齢世帯及び出前講座や介護予防教室等で簡単なアンケートを実施し、担当地域住民のACPの浸透度合いが数値で把握することができるとともに、中津川市版ACP「私のこころづもり」の配布、啓発を行うことができる。</p> <p>・機関紙などでSNSを通じて情報提供を行い、啓発活動を行っていく。</p> <p>・アンケートの結果をもとに、更に中津川市版ACP「私のこころづもり」を活用しやすいツールへと改善したり情報発信の工夫を今後行っていく。</p>		

センター名	中津川市シクラメン地域包括支援センター			
担当地域	阿木地域			
人口	1,920人			
高齢者数	65歳以上	859人	(内75歳以上)	498人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	44.7%	75歳以上高齢者割合	25.9%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5 事業対象者数	125人 (2人) 10人	要支援1、要支援2	21人 (0人)
介護認定率	17.9%			
現状	高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしく暮らせる地域づくりを進めている中、市内で3番目に高い高齢化率は今後も上昇が予想され、車の運転免許を返納する高齢者の方の増加が見込まれる。			
課題	車の運転免許を返納後、買い物、受診など生活の継続や社会参加の維持に困る高齢者の方が多くなる。			
目標 (目指す姿)	高齢者の方が身近で買い物ができる様にしていくと同時に、社会資源の継続の為に地域でできる協力について考えることができる。			
事業名	買い物に関するアンケート調査の実施			
取り組み内容	(1)阿木地域包括支援ネットワーク会議(通称 ごちゃまぜ会議)として、令和4年度から構成団体である区長会と民間企業(スーパーの経営元)との買い物に関する意見交換を定期的に開催。 (2)阿木地域包括支援ネットワーク会議(通称 ごちゃまぜ会議)令和6年度全体会議で、社会資源に対し地域でできる協力についてグループワークを実施。 (3)令和7年4月にアンケート用紙の他インターネット回答を用いて、買い物等について10代から75歳以上と多世代の意見を聞くことができる様にアンケートを実施。 (4)今後、アンケートの分析と地域への報告を行う。 (5)地域できる取り組みを実施する。			

センター名	中津川市北部地域包括支援センター			
担当地域	山口・坂下・川上・加子母・付知・福岡・蛭川 地区			
人口	21,608人			
高齢者数	65歳以上	8,730人	(内75歳以上)	5,021人
高齢化率	65歳以上高齢者割合	40.4%	75歳以上高齢者割合	23.2%
介護認定者数 (※)	要介護1～要介護5 事業対象者数	1,180人(22人) 11人	要支援1、要支援2	220人 (6人)
介護認定率	15.8%			
現状	担当地区に坂下高校(福祉科)があるが交流ができていない。			
課題	福祉関係の仕事を志す学生と地域の高齢者が直接関わる事が少なく強みを生かす事ができない。			
目標 (目指す姿)	包括で行う事業に坂下高校の学生に参加してもらい地域の高齢者との交流や地域の課題など一緒に考えて地域づくりに取り組める。福祉の人材育成に少しでも貢献できるよう努める。			
事業名	坂下高校と地域に暮らす高齢者との交流の促進			
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂下高校の先生と互いの目的を共有し年度計画を行い実行していく。</li> <li>・坂下高校での認知症サポーター養成講座を行通じ顔の見える関係をつくる。</li> <li>・やさか地区での介護者のつどいに参加してもらい介護者家族との交流。</li> <li>・坂下診療所と共同で行う認知症カフェに参加してもらい医療関係とも繋がりをもつ。</li> <li>・高齢、福祉フェアに参加してもらう。</li> <li>・介護予防教室を坂下高校で開催し内容と一緒に検討し実施する。</li> </ul>			